

機関番号：12501  
 研究種目：基盤研究(C)  
 研究期間：2008～2010  
 課題番号：20530503  
 研究課題名（和文）欧州における「ソーシャル・クオリティー・アプローチ」のアジアへの適用  
 研究課題名（英文）The Applicability of EU Social Quality Approach into Asia  
 研究代表者 小川 哲生 (OGAWA TETSUO)  
 千葉大学・法経学部・准教授  
 研究者番号：10384869

研究成果の概要（和文）：本研究では、国際連合による社会発展の目標と公共政策研究に影響を与えている幾つかのアプローチについて、次のような方法で考察を加えた。1) ソーシャル・クオリティー (SQ) の概念の明確化、2) 個人のQOL決定因子に関するSQの役割、3) ソフトウェアによるSQ指標の開発、4) アジアにおけるSQの潜在的な可能性、5) SQアプローチによる比較研究と公共政策の必須条件への新方法論・ツールの提供。

研究成果の概要（英文）：This research has examined at the social development goals set by the UN and several approaches to have had a particular resonance for public policy research, by following examinations: 1) the concept of *Social Quality*, 2) some discussions of the role of *SQ* on the key determinantson of individual QOL, 3) development of *SQ* indicators by software, 4) a potential of *SQ* in Asia, and 5) in what way the *SQ Approach* presents new tools for comparative research and a basic condition for public policies.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文社会系・社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：社会保障・社会福祉政策・ソーシャル・クオリティー・アジア型市民社会・EU公共政策立案

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、アジア諸国におけるウェルビーイングを目標とする公共政策の発展を欧州からの研究比較視座から供給する研究方

法論「ソーシャル・クオリティー・アプローチ」によって実践する基盤を日本にて構築することにある。特に欧州型からアジアにおいて適用を目指した研究方法論の開発

に主眼を置き、政策価値における「福祉の持続性と国家の発展」の両概念を規範・記述論の両面から考察し、ウェルビーイングのありかたを地域社会レベル・国家レベル・共同体的レベルで移行戦略として作成することを目標とした。また、それを今後、アジア諸国に広範化し、アジアにおける公共政策の1つとして政策研究の方法論、また、それを基にした研究基礎・基盤を確立することの必要性が認識されてきた。これらは、今後、アジア地域の社会政策研究者、非営利機関、NGOと国際NGOの実務家、また、国際連合高齢化プログラム、国際連合アジア太平洋経済社会委員会と欧州社会ソーシャル・クオリティ財団（The European Foundation on Social Quality: 欧州委員会研究委託機関）の協力の下に進められることになった。具体的には、第1に、現在欧州委員会第7フレームワーク・プログラムに申請する3つの研究テーマに日本から参加するための基礎研究を行なうことである。その欧州委員会の研究プロジェクトは(1)「社会の質の測定のための指標化」(2)「現代の公共健康政策（公衆衛生・保健・医療・介護政策）」(3)「人口の高齢化、雇用・労働市場と福祉レジーム」の3つである。また、第2に、社会政策研究における「普遍的な理論構築」及び「その実証研究への適用」に関する教科書の出版と修士レベルでの研究方法論のコースを、欧州研究者との間で共同開発・作成することである。

## 2. 研究の目的

ウェルビーイングを目標とする公共政策群と社会的動向は、個人のQOLと強く相互作用の関係にあるが、公共政策は「人々の目的」・「個人的な目標」そして「それらを達成する可能性の追求」に強い影響を与えている。

特にこれらはアマルティア・センのアプローチに代表されるような「個人のQOL」の追求にある。しかし、本研究プロジェクトでは、現代社会と政策の諸動向と、他方で市民としてのソーシャル・ウェルビーイングにも関係にする「公共の認識」・「政策の考え・目標」について、「公共政策に関連した影響」について条件的要因とその規範的な要因からも分析を加える。主要因の4つは①社会経済保障②社会的な結合③社会的包摂④社会的エンパワーメントである。この条件的要因・規範的な要因から社会政策群を分析する方法を「ソーシャル・クオリティ・アプローチ」と呼んでいる。この考えは社会政策立案の基盤となる「社会の質」と「社会権」の2つにも着目した理論・実証研究を規範・記述理論の融合に基づき、「ソーシャル・クオリティ」をその実証研究に導入するものである。また、この研究では実際の政策研究を通して、個人のQOLへの社会的動向と政策効果を検討する。上記の動向は、特に人口の高齢化と低出生率に関連する人口動態における変化、ジェンダーの役割における変化、社会あるいは家族関係における変化、子供や病人あるいは要介護高齢者のための需要の伸びに対するケア組織での変化、仕事と余暇の過ごし方における変化、労働・収入の分配における変化といった諸変化を包括するものである。また、社会政策におけるコンセプトのもう一つの重要な側面として、幾つかの公共政策（例えば、社会的ケア、雇用、教育、環境そして健康政策など）とライフスパンを通じた人々のモデルとなる政策実施と計画性・実行可能性との関係にも着目する。本研究では、GDPのような福祉における伝統的な「社会経済指標」とWHOによって主張された「個人のQOLの主観的ならびに客観的指標」を含むQOLの革新的な基準との関係を「社会の変化・発

展のプロセス」を含みながら、既に欧州委員会採用されている「ソーシャル・クオリティ・アプローチ」から包括的に考察することである。また、これらの諸問題は特にジェンダー的な側面から調査され、幾つかの局面からの比較アプローチを取るようになる。

### 3. 研究の方法

ウェルビーイングを目標とする公共政策に関して、EUにおける「ソーシャル・クオリティ・アプローチ（理論研究、方法論の構築・作成、実証研究の組み合わせによって開発された方法論を使用した政策研究の手法）」の今までの先行研究が政策に対して明らかにしたものを整理し、日本とアジアへの適用可能性を把握した上で、EUとアジア間における比較研究において修正すべき点をその適用可能性に照らし合わせながら明らかにする。また、欧州委員会を中心にして今まで発行された報告書・レポートの数多くに対して、EUとアジア間の相違を価値・規範・文化などの要因に照らして分析する。さらに、上記の指標群を包括的に可視化できるコンピューター・ソフトウェアの開発を行ない、様々な指標との統合を目指す。

### 4. 研究成果

研究成果については、研究代表者が発表した論文・図書の他に、直接編集に関わる海外の英文学術誌：*The European Journal of Social Quality*に今後発表する予定である。3年間の成果は、将来的な統合指標へ向けてコンピューター・ソフトウェアとして開発され、産業財産権として商標権の出願・取得を行なった。今後、さらにそのヴァージョン・アップを行なう他、統合指標の実証的な検分の第一段階として、千葉県成田市成田ニュータウン

においてのQOLとソーシャル・クオリティ調査のパイロット調査へ向けての質問票の検分を行ない、今後のアジア地域での公共政策への適用を探った。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

① Tetsuo Ogawa, “A New Perspective on Ageing: Social Quality and its Potential Role for Public Policy Making in Asia and the Pacific”, *Public Administration in the 21<sup>st</sup> Century: Tradition and Innovation*, School of Public Administration in Moscow State University, 2008, pp. 218-230.

[学会発表] (計4件)

① 招待講演 Tetsuo Ogawa, “Human Rights? – Values, Norms and Developing States’ Contention against Humanitarian Intervention: Beyond an Institutional Accommodation”, 2009.6.10 オランダ・社会科学研究所ISS Human Right and Social Quality Meeting

② 招待講演 Tetsuo Ogawa, “The Concept of Social Quality and its Potential Role for Public Policy Making”, 2009.5.2 タイ王国 National Institute of Development Administration (NIDA)

③ 招待講演 Tetsuo Ogawa, “A New Perspective on Social Development: MDGs, Human Security and Social Quality”, 2009.4.30 タイ王国チュラロンコーン大学社会研究センター

④ 招待講演 Tetsuo Ogawa, “Social Quality and its Potential Role for Public Policy Making in Asia and the Pacific”, 2008.10.24 中国・南京大学第3回国際会議

[図書] (計1件)

① 小川哲生 「第2章：グローバル社会における新しい社会発展の見方- MDGs (ミレニアム開発目標), 人間の安全保障とソーシャル・クオリティ」小川 (西秋) 葉子、川崎賢一、佐野麻由子 (編著) 『<グローバル化>の社会学 循環するメディアと生命』 恒星社厚生閣 2010年 pp.55-75, 総 285 ページ

○取得状況（計1件）

名称：商標権「ソーシャル・クオリティー」  
第42類  
発明者：小川 哲生  
権利者：千葉大学法経学部小川哲生研究室  
種類：商標  
番号：第5395037号  
取得年月日：平成23年3月4日登録  
国内外の別：国内

〔その他〕

ホームページ

[www.socialquality.org](http://www.socialquality.org)

6. 研究組織

(1)研究代表者 小川 哲生 (OGAWA TETSUO)  
千葉大学・法経学部・准教授  
研究者番号：10384869

(2)研究分担者 所 道彦 (TOKORO  
MICHHIKO) 大阪市立大学・大学院生活科  
学研究科・准教授  
研究者番号：80326272

研究分担者 河野 真 (KONO MAKOTO)  
兵庫大学・生涯福祉学部・教授  
研究者番号：10186629